

World Wide Webは、研究者たちがその研究成果をいつでも、どこでも、誰にとっても利用可能にするための手段を提供している。これは、学会発表論文や学位論文、研究レポートのような他のタイプの研究成果と同様、学術誌論文にも当てはまることである、そしてそれはその論文が発表されている学術誌を自分たちの図書館が購読しているかどうかに関わりがない。これはオープンアクセスとして知られている。

研究者たちは研究成果を出版し、それによって自分の研究であるという主張を確立し、他の研究者たちがその上に研究を築いていくことを可能にする。学術誌論文の場合、これまでは、資金の豊富な学術機関しか、出版された学術誌全体の相当数を購入することができず、そのため、そうした論文にアクセスし、それを知ることは、ほとんどの研究者にとって必ずしも容易なことではなかった。オープンアクセスはこうした状況を変えるものである。

オープンアクセスとは何か

オープンアクセスの研究文献は、無料かつオンライン化された、査読済みの学術誌論文、学会発表論文、ならびにテクニカルレポート、学位論文、ワーキング・ペーパーから構成される。ほとんどの場合、読者がこうした文献を使用する際、ライセンスの制約はない。したがって、読者は研究、教育、その他の目的で自由に使用することができる。

オープンアクセスではないもの

オープンアクセスについてはさまざまな誤解が存在する。それはセルフパブリッシングのことではないし、査読と出版を回避（または省略）する方法でもない。また、ある種の二流の割引価格での出版ルートでもない。オープンアクセスとは、研究成果を研究コミュニティ全体に、オンラインで自由に（無料で）利用可能にする手段に他ならない。

オープンアクセスはどのようにして提供されるのか？

オープンアクセスはさまざまな方法で提供することができる。研究者は、各論文をオープンアクセスのアーカイブあるいはリポジトリに置くことが可能であり、またオープンアクセス学術誌に論文を発表することも可能である。さらに、研究者は論文を個人あるいは部門のウェブサイトに掲載することもできる。オープンアクセスへの3つのルートはいずれも確実に、論文が購読ベースの学術誌に隠れている場合に比べて、はるかに多くのユーザーがそれらの論文にアクセスできるようにするものであるが、前二者は第三のものに比べて、はるかに系統的かつ組織的な方法であり、他の研究者たちが論文の在り処を見つけ、それを読む機会を最大化するものである。

オープンアクセスのアーカイブあるいはリポジトリは、研究論文のデジタル・コレクションであり、論文の著者たちによってそこに登録されたものである。学術誌論文の場合、それが行われるのは、出版の前（プレプリント）もあれば、後のこと（ポストプリント）もある。これは「セルフアーカイビング」として知られている。それらは各論文のメタデータ（タイトル、著者、その他の書誌情報の詳細）を、「メタデータ収集のためのプロトコル（OAI-PMH）」に準拠したフォーマットで公開している。それらのアーカイブのコンテンツへのアクセスは、Googleあるいはさらに焦点を絞った効率的な検索用に専門化した検索エンジンの一つを利用して行うことができる。後者は、世界中のアーカイブのコンテンツを体系的に収集し、現在の世界的な研究のデータベースを形成している。オープンアクセス・リポジトリは多分野にわたり、大学やその他の研究ベースの機関に置かれている場合もあれば、物理学の一定の領域および関連分野をカバーする、arXiv と呼ばれるリポジトリのように、中央集中型で主題ベースの場合もある。2005年初めの時点で、英国にはほぼ40のオープンアクセス・アーカイブが存在していた。そしてさらに多くの大学、研究機関がそれぞれ、そうしたアーカイブの立ち上げを計画している。英国におけるオープンアクセス・アーカイブのリストはサウサンプトン大学のEprints.orgサイトで維持されている。学術機関にアーカイブがまだ存在しない場合、その設置の方法に関する幅広い情報をそのウェブサイトで見ることができる。セルフアーカイビングは国際的な動きであり、急速に発展している。いくつかの助成金供給機関も現在、その助成受給者の論文を収容する中央集中型のアーカイブを計画中である。

学術誌出版社が著作権上の制約により、研究者がその論文をセルフアーカイビングするのを妨げるのではないかと読者が気にかけるとすれば、ほとんどの場合、それは当てはまらないだろう。セルフアーカイビングおよび著作権に関する出版社の現在の方針は、ノッティンガム大学のSHERPAプロジェクトのウェブサイトで詳述されている。

オープンアクセス学術誌は、その論文がオンラインで、誰でも無料でアクセスできる査読済みの学術誌である。多くの場合、それらは印刷物でも発行されている。主として、大学の一部門から、あるいは多額の助成金で発行されている学術誌であるが、投稿料あるいはページ・チャージをまったく課さないものもいくつかある。それに対して、学術誌のコンテンツへのアクセスに対して図書館が購読を通じて支払う従来のモデルを逆に、論文の出版に対して料金を課しているものもある。この料金は著者が支払う場合もあるが、ほとんどの場合、研究助成金あるいは機関の資金によって支払われている。読者の研究機関はすでに、オープンアクセス論文の出版の支払いを行うことを決定しているかもしれないし、あるいは読者の研究助成団体はこれを方針として採用しているかもしれない。

こうした目的のために資金を使うことを明示的に許している研究助成団体のリストはBioMed Centralウェブサイトに掲載されている。BioMed Centralは、そのポートフォリオに100以上の学術誌を有する有名なオープンアクセス出版社である。他の例としては、PLoS MedicineやPloS Biologyなど、Public Library of Scienceから出されている学術誌がある。著者が財政的に困難な場合、BioMed Central、PloSおよび他のオープンアクセス学術誌出版社は投稿料の請求を放棄するだろう。オープンアクセス学術誌によって課せられている料金は、学術誌によってかなり顕著な違いがあるが、目安としてあげれば、BioMed Centralは、その学術誌のほとんどにおいて、論文当り330ポンドを課している、またPloSは1500米ドル（約800ポンド）を課している。2003年、JISCは英国の学術機関のために、BioMed Centralとの間で、90以上の生物医学学術誌について、投稿料の請求を放棄する取り決めを成立させた。

あらゆる学問分野におけるオープンアクセス学術誌の包括的リストはレント大学によって維持されている。2005年早期の時点で、このリストは1400を超える学術誌を含んでいた。それらのオープンアクセス学術誌の多くはインパクトファクターを持っており、Institute for Scientific Information社のWeb of Knowledge/Web of Scienceに収録されている。2004年6月段階で、239のオープンアクセス学術誌がこのカテゴリーに入っていた。別の形態のオープンアクセスは次のような「ハイブリッド」学術誌に見られる：これらは、著者が出版の支払いを行うことを選択する場合、論文を無料で誰にでもアクセスできるようにする出版物である。

ハイブリッド学術誌の例は「Proceedings of the National Academy of Sciences」であり、これは一論文を1000米ドルの料金でオープンアクセスにしている。

なぜ著者は自らの論文へのオープンアクセスを提供すべきなのか?

セルフアーカイブされている研究論文はそうでないものより頻繁に引用されるということを示す証拠が増えつつある。ほとんどの学問分野を通じて、引用の度合いは、少なくとも2倍に増加する。いくつかの分野ではさらに高くなっている。こうした形のオープンアクセスは、研究が以前よりもはるかに大きなインパクトを持つということの意味する。それだけでなく、研究成果がオープンアクセス・ベースで利用可能になる場合、研究サイクル、つまり研究成果が出版され、読まれ、引用され、それを基に他の研究者によって発展させられるというサイクルが高められ、加速される。皆さんは、自分の研究のために読んだり、利用したりする必要がある論文に対して、簡単に、そして制限なくアクセスできる方を選びたいと思いませんか？

本報告書はJISCのためにKey Perspectives社のAlma Swanによって書かれ、Sara HassanおよびJISCコミュニケーション・チームによって制作・編集されたものである。本報告書の別のフォーマットは以下で見ることができる：
www.jisc.ac.uk/publications

さらなる情報およびリソース

JISCオープンアクセス・イニシアティブ

JISCのFAIRプログラムは、学術機関の資源へのアクセス共有のためのさまざまな仕組みを探り、評価している：

www.jisc.ac.uk/programme_fair.html

DAEDALUSおよびTARDISのプロジェクトは、効果的な学術機関リポジトリ構築のさまざまなモデルを調査している：

www.lib.gla.ac.uk/daedalusおよび<http://tardis.eprints.org>

ePrints UK Projectは、オープンアーカイブ・リポジトリからeプリントにアクセスするための全国的、学術分野別のサービスを開発中である：
www.rdn.ac.uk/projects/eprints-uk

オープンアクセス・アーカイブおよびセルフアーカイビング

Eprints.orgサイトは、既存のアーカイブのリストおよび構築方法についての手引きを含め、オープンアクセス・アーカイブに関する一般的情報を備えている：
www.eprints.org
最もよく知られたオープン・アーカイブの検索エンジンについては以下を参照：

OAIster：www.oaister.org www.oaister.org

およびCitebase：<http://citebase.eprints.org/cgi-bin/search>

SHERPAプロジェクトは、いくつかの研究大学におけるオープンアクセス・アーカイブを開発中である：

www.sherpa.ac.uk

出版社ごとの（アーカイブの）許可に関する方針は以下で調べることができる：
www.sherpa.ac.uk/romeo.php

また、雑誌別では：<http://romeo.eprints.org>

Directory of Open Access repositoriesは、オープンアクセス・リポジトリの権威あるリストを提供する新たなパイロット・サービスである：
www.openoai.org

オープンアクセス学術誌

最大のオープンアクセス学術誌出版社であるBioMed Centralに関する情報については次を参照：
www.biomedcentral.com
投稿料の支払いに資金を当てる事を許している研究助成団体に関しては、次のリストを参照：

www.biomedcentral.com/info/about/apcfaq#grants

Public Library of Scienceに関しては：
www.plos.org

オープンアクセス学術誌の最新のリストに関しては：
www.doaj.org

オープンアクセスの引用およびインパクトに関する調査

オープンアクセス研究論文のインパクト増大に関する最も初期の調査はSteve Lawrenceによるものだった：

www.nature.com/nature/debates/e-access/Articles/lawrence.html

Michael Kurtzによる調査がそれに続いた：

<http://cfa-www.harvard.edu/~kurtz/jasist1-abstract.html> および

<http://cfa-www.harvard.edu/~kurtz/jasist2-abstract.html>

オープンアクセス論文のインパクトに関する最新の調査はHarnadおよびBrodyによるものである：

www.dlib.org/dlib/june04/harnad/06harnad.html

他のオープンアクセスのリソース

<http://www.arl.org/sparc/>

www.arl.org/sparc/soa/#forum

米国の科学者の討論フォーラム（主に研究者向け）：

<http://amsci-forum.amsci.org/archives/American-Scientist-Open-Access-Forum.html>